

稲わら収集技術体系マニュアル

～稲わらビジネスを経営の柱のひとつに～



令和3年2月
青森県稲わら流通促進会議

まえがき

わら焼きの煙は、周辺住民の健康被害や交通障害の原因となるほか、観光産業にとっても大きなマイナスとなるため、青森県では、平成19年度の「日本一健康な土づくり運動」展開、平成22年度の「青森県稲わら有効利用の促進及び焼却防止に関する条例」制定などに取り組みながら、稲わらの有効利用を推進してきました。

しかし、一部地域では、依然として稲わらの焼却処分が行われているほか、津軽地域も含めた国産稲わらをもっと利用したいという県南の畜産農家の要望に対して十分応えられていない状況にあります。

このため、県では「あおもり型稲わら有効利用促進事業」（令和元年～令和3年）を立ち上げ、稲わら収集・販売業への新規取組者等が、高品質な稲わらロールを生産できるよう、青森県稲わら流通促進会議が主体となって稲わら収集技術体系マニュアルを作成したところです。

本マニュアルが、稲作農家や稲わら収集・販売事業者の皆様に「商品としての稲わら」という視点を持っていただき、県内におけるの稲わら利用の拡大につながれば幸いです。

令和3年2月

青森県稲わら流通促進会議構成員一同

本マニュアルの利用に当たって	1
1 稲わら収集作業の流れ	2
2 作業準備のポイント	6
(1) 機械等のメンテナンスについて	
(2) 作付け品種及び作業ほ場の選定について	
3 稲作農家に取り組んで欲しいこと	8
(1) 水はけ対策について	
(2) コンバイン収穫時の刈取高さについて	
(3) コンバイン収穫時の順路について	
(4) 稲刈り時の裁断の長さについて	
4 稲わら収集事業者に取り組んで欲しいこと	11
(1) 収集作業のポイントについて	
(2) ほ場からの運搬について	
(3) 保管時のポイントについて	
(4) 出荷時のポイントについて	
(5) 品質確保のための水分測定について	
5 稲わら販売の収益性に関する分析結果	30
6 宮城県での取組事例	40
7 その他	41

本マニュアルの利用に当たって

稲わらロールの品質は、太陽に対する田んぼの向き、ほ場の乾き具合、所有している機械の性能、保管場所の風通しなど、様々な要因に左右されます。

このため、本マニュアルは、新規に稲わら収集・販売に取り組もうとする者を念頭に基本的事項をとりまとめたものです。

稲わら収集の初心者の方は、飼料として供給できる稲わら生産の入門書として、既に稲わら収集に取り組んでいる方は、品質向上を図るための参考書として活用してください。

目指すべき

「商品としての稲わら」の姿

- 1 稲わらロール水分19%以下の稲わら
- 2 異物混入のない稲わら
- 3 長期間保管できる稲わら

1 稲わら収集作業の流れ

(1) 溝切り 6月下旬～7月上旬



(2) 稲刈り 9月～10月



(3) 集草作業 10月～11月



(4) 梱包 10月～11月



(5) 運搬 10月～11月



(6) 保管 10月～



2 作業準備のポイント

(1) 機械等のメンテナンスについて

- 稲わら収集作業は、降雨の合間や降雪までに、すばやく行うことが必要です。

作業中の故障が発生しないよう、事前のメンテナンスは、しっかり行いましょう。

機械名	作業
溝切り機	溝切り
コンバイン	刈取、裁断
(テッダ)	(反転)
レーキ	集草
ロールベーター	梱包
ベールグラブ等	ロールの積み下ろし
保管庫、ハウス等	ロールの保管

(2) 作付品種及び作業ほ場の選定について

- 稲わら収集は、作業期間を長く確保することが重要です。

新規に稲わら収集に取り組む方は、飼料用米よりも刈取が早い主食用米のほ場を選択しましょう。

- 作業するほ場の順番は、ほ場の乾き具合、降雨までに梱包できる面積、ほ場までの距離等を勘案し、柔軟に対応しましょう。

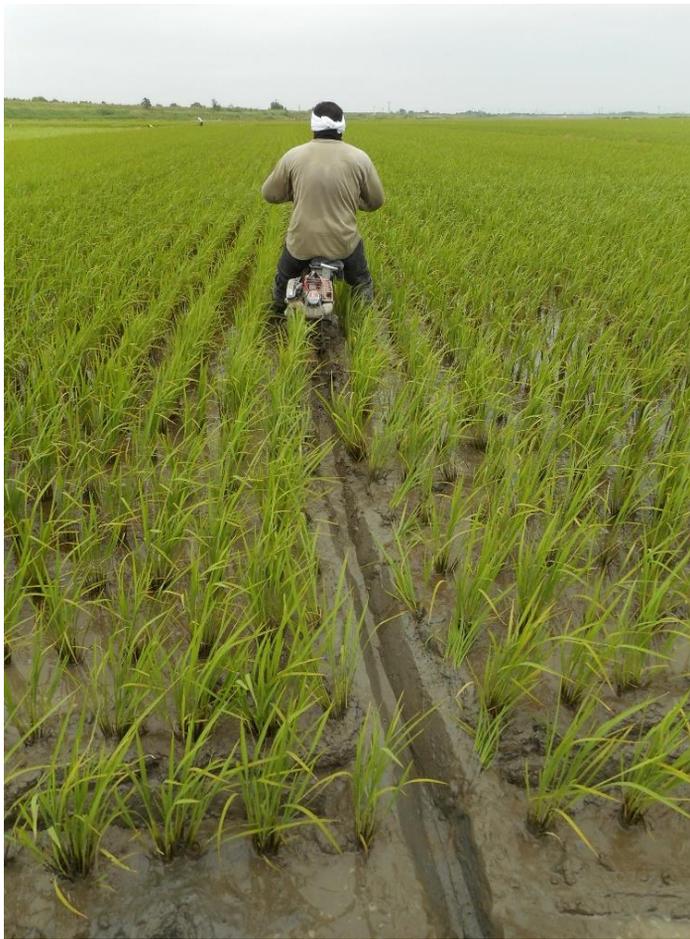
作業名	作業時間（目安） 10aあたり	
	200kgロール	15kgロール
反転	8分	
集草	6分	6分
梱包	8分	23分

※令和元・2年度収益性に関する実態調査
（青森県食の安全・安心推進課）より

3 稲作農家に取り組んで欲しいこと (1) 水はけ対策について

- 収集作業は、大型機械が入れるように水田が乾いていることが重要です。

ほ場の水はけをよくする溝切りは、積極的に行いましょう。



- 特に、水はけの悪い水田では、少なくとも10aあたり縦に2本、水口、水尻に横に1本ずつ実施しましょう。

(2) コンバイン収穫時の刈取高について

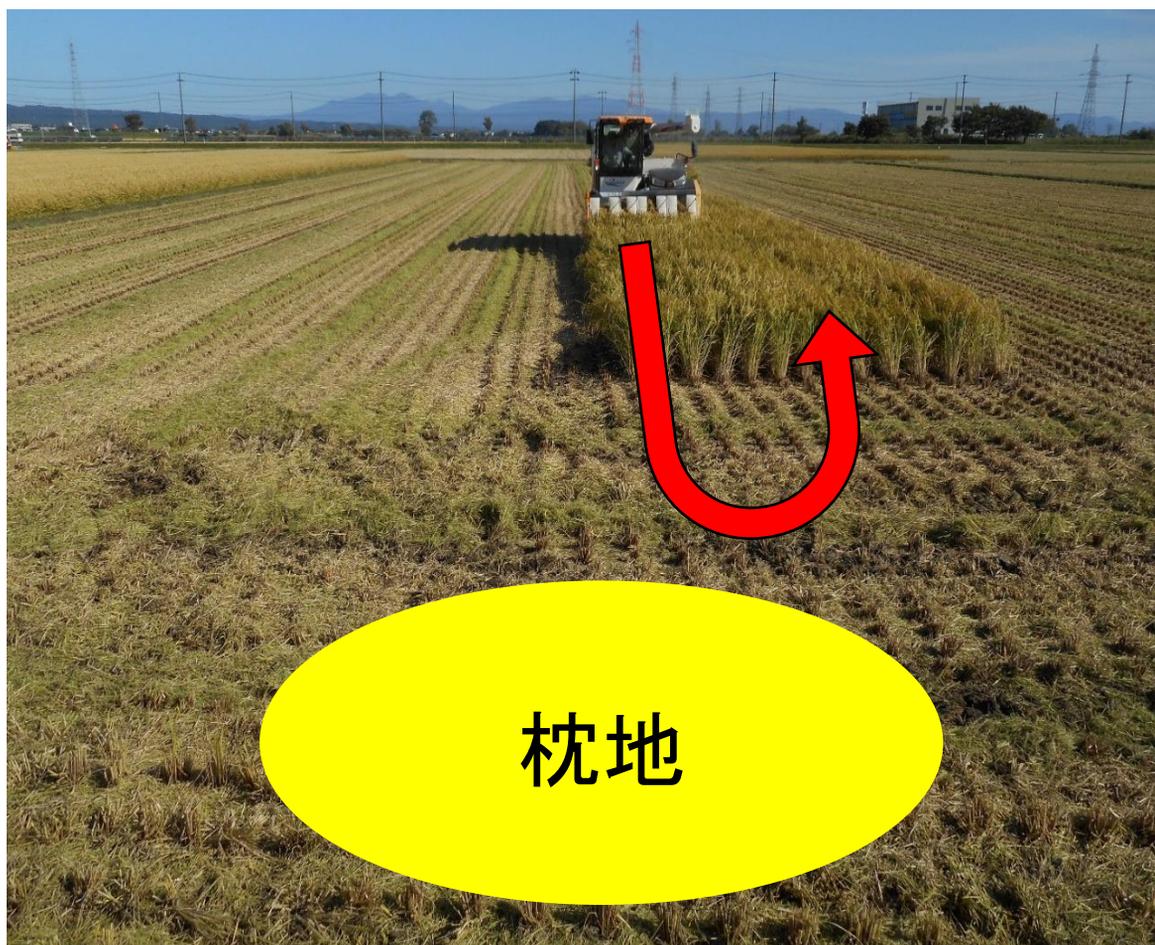
- 刈り取った稲わらは、乾燥しやすくなることと、稲わら収集時に土砂の混入を防ぐことが重要です。このため、コンバインの刈取高は、地上部から10cm以上を確保するようにしましょう。



(3) コンバイン収穫時の順路について

- 稲刈り作業時は、稲わらをコンバインのローラーで踏みつけないことが重要です。

ほ場へ進入し、外周を3周程度刈り取った後は、枕地をUターン場所として利用しましょう。



(4) 稲刈り時の裁断の長さについて

- 集草作業は、稲わらのロスを少なくすることが重要です。コンバインの裁断幅を調整し、稲わらの長さは、集草作業に支障が出ないよう15cm以上にしましょう。

4 稲わら収集事業者に取り組んで欲しいこと

(1) 収集作業のポイントについて

ア ほ場状態の確認について

- 下の写真のように、裁断稲わらの乾き具合は、一見、乾燥しているように見えても、内部が湿っていることがあります。

集草する前に、稲わらが積み重なっているところの内部を確認しましょう。



イ 反転・集草について

- ジャイロレーキによるウインドロー形成は、稲わらを乾燥させるために簡易な反転作業と集草作業を同時に行うことができるので、必ず行うようにしましょう。
- さらに稲わらの乾燥を促したい場合は、レーキによる集草作業の前にテッダで反転作業を行いましょ。



ツインジャイロレーキによる集草



シングルジャイロレーキによる集草



ウインドロー形成

<参考1>

1 集草機械の違いによる作業性について (200kg稲わらロール)

(1) 調査日時・場所等

ア 日時 令和元年10月7日

イ 場所 五所川原市金木蒔田米崎

ウ 調査区

・実証区 ツインジャイロレーキ(175a)

・対象区 シングルジャイロレーキ(120a)

2 結果について

- ツインジャイロレーキの10aあたりの集草時間は、約2分6秒であり、シングルジャイロレーキは、約3分20秒で、1分14秒の差があり、10aあたり37%作業時間が削減された。



ツインジャイロレーキによる集草



ツインジャイロレーキで形成したウインドロー



シングルジャイロレーキによる集草



シングルジャイロレーキで形成したウインドロー

<参考2>

1 集草機械導入による作業性について（15kg稲わらロール）

(1) 調査日時・場所等

ア 日時 令和2年10月13日

イ 場所 平川市苗生松

ウ 調査区

・実証区 シングルジャイロレーキ(60a)

・対象区 集草機未導入(30a)

2 結果について

集草機でウインドローを形成した場合

(1) 梱包時間は、集草作業を行わない時よりも10aあたり2分49秒短かった。また、1個あたりも約3秒短かった。

(2) 稲わらロールの生産数量は、10aあたり約36個生産し、集草作業を行わない時より約7個多かった。



集草作業



ウインドロー



梱包作業（集草あり）



梱包作業（集草なし）

ウ 梱包について

(ア) けん引式

- 梱包には、可変式（芯巻き）と定形式（側巻き）があります。
- 「芯巻き」は、芯を中心に作成するので、稲わらロールの径を調整できますが、蛇行しながら走行しなければ、台形のようになるので注意しましょう。
- 「側巻き」は、決まった型にわらが詰まっていくので、ロールの径を調整することはできませんが、蛇行する必要はありません。



芯巻きでの梱包



※可変式（芯巻き）7,018,000円税込（規格80～130cm×118cm）
定形式（側巻き）4,157,000円税込（規格115×100cm）
（カタログ価格（株式会社タカキタ））

(イ) 自走式

- 集草作業時に稲わらの量を多くすると、詰まりの原因となるので、注意しましょう。



200kgロール



15kgロール

※15kgロール 976,800円税込 (規格50~65cm)
200kgロール 9,350,000円税込 (規格100×100cm)
(カタログ価格 (株式会社タカキタ))

(ウ) 梱包資材

【15kgロール】

- 梱包資材は、紐(トワイン)が主流です。
- ネズミに紐をかまれると、稲わらロールがくずれ、再梱包が必要となるので、出荷までの日数が長期間(約1か月以上)となる場合は、ネットの使用をお勧めします。

【200kgロール】

- 梱包資材は、紐(トワイン)よりも価格が安く、ロスが少ないネットがお勧めです。
- ネットの特徴
 - ・ 梱包時間が紐の1/3になる。
 - ・ ネズミに1カ所かまれてもほどけない。

参考

1ロール当たりの価格差		
ネット	約200円	
紐	約216円	差16円



トワインによる梱包



ネットによる梱包

(2) ほ場からの運搬について

- ネットを傷つけないベールグラブで作業を行いましょう。



ベールグラブによる積み込み



- 機械等との接触でネットが裂けないように、周囲に注意し、丁寧に扱きましょう。



● 梱包後は、雨が降る前にできるだけ早く倉庫（保管場所）に運び込むことが基本です。

野ざらしは、梱包後の発酵による熱がこもるのを防ぐことはできますが、雨にさらされると品質が低下するので、天気予報はこまめにチェックしましょう。

熟練者コラム



梱包するときは、刈取日から集草した日の日数や集草してからの天候の状況を勘案し、梱包した稲わらの水分状況を見定めています。

これによって梱包後、数日たってから、倉庫へ搬入するときもあります。

(3) 保管時のポイントについて

ア 倉庫の場合

- 最下段の稲わらロールは土などで汚れ、腐敗の原因になりますので、パレットやもみ殻を敷き詰めるなどの対策をしましょう。



●保管中の稲わらロールの水分の減少は、施設の状況（ハウス、倉庫等）や積み上げた位置で異なりますので、水分を測定する際は、上段、下段等場所を変えて、ロールの水分を測定しましょう。

1 200kg稲わらロール保管位置の違いによる水分変化



2 調査結果



イ パイプハウスの場合



パイプハウスの結露の様子

- パイプハウスで保管する場合は、換気作業が重要です。晴天の時にハウスの換気を行わないと、結露して、水滴が発生し、その水滴がカビの原因となるので、雨や吹雪以外は積極的に換気を行いましょう。

ウ 品質が悪い稲わらロールについて



- 稲わらロールの水分が多い部分は、黒ずんで見えます。このような稲わらロールは、乾燥しやすいよう写真のように横において保管しましょう。
- 保管時は、発酵による熱が逃げるよう、稲わらロール同士の空間を確保し、通気性をよくしましょう。

- 雑草が多く混入している、水分を多く含んでいる等、飼料用として供試できない稲わらロールは区別して保管しましょう。





保管場所での再梱包の様子

- 稲わらロールの水分が高く、カビの発生が心配される場合は、一度バラして再梱包しましょう。

熟練者コラム



水分が多いと発酵しやすく、売り物にならないロールが増えますが、ごく稀にうまく発酵し、甘い香りで牛の嗜好性が増す稲わらに仕上がることがあります。

(4) 出荷時のポイントについて



●積んだ順番にこだわらず、稲わらロールの状態を確認してから出荷しましょう。

また、稲わらロールの状態を出荷先に伝えることでトラブルを回避しましょう。

熟練者コラム

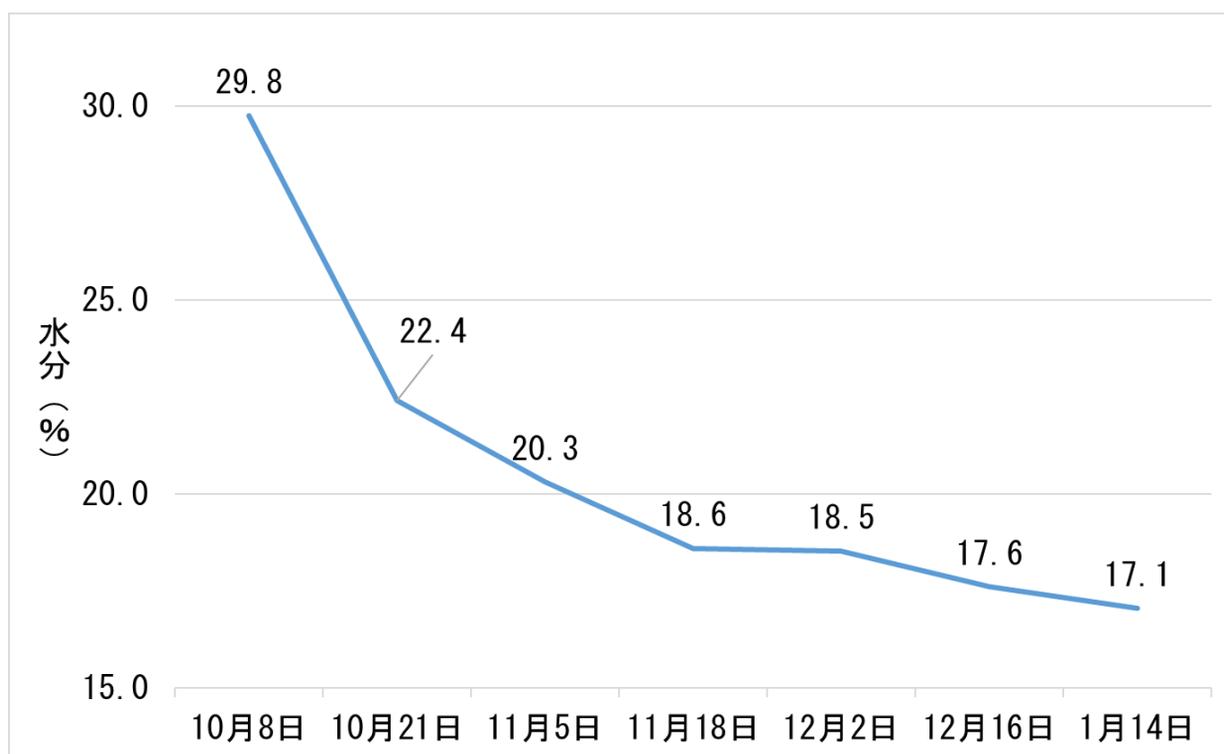


梱包時の水分が高い稲わらは、出荷時の水分が下がっていても、内部が変質している（黒くなっている）ことがあります。苦情処理が大変でした。

- 保管中の稲わらロールは、水分減少に伴い、重量が減少していくことを踏まえ、出荷先との販売条件を取り決めましょう。

<参考>

稲わらロールの水分変化



熟練者コラム



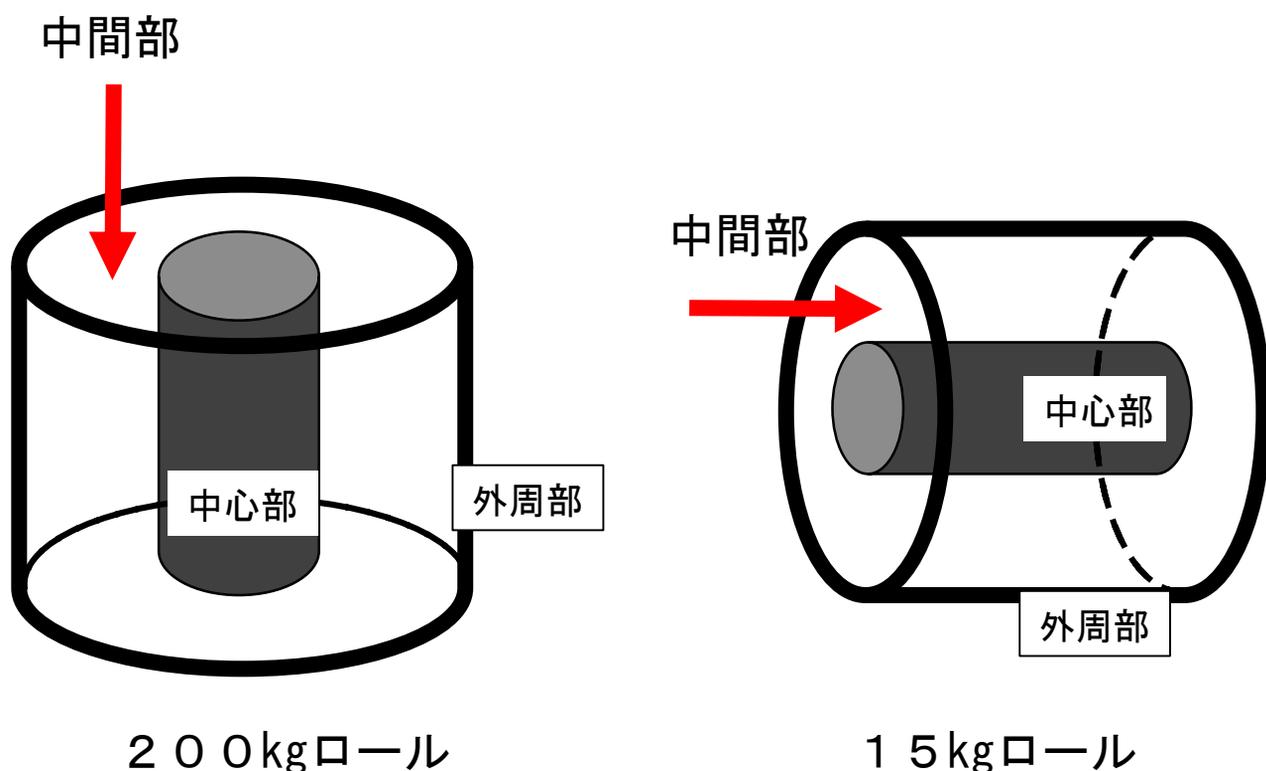
春にも出荷を求められるので、1ロール200kgで取引する場合は、梱包時に230kgになるように稲わらロールを生成しています。

(5) 品質確保のための水分測定について

- 稲わらロールは、集草作業を実施した方が、未実施より乾きやすく、ロール生成時の水分が低くなります。

特にツイングャイロレーキの効果が高い傾向です。

- 稲わらロールの水分は、最も高い中間部を測定するようにしましょう。(下図参照)
- もし、ロールが固く水分測定器の針が刺さらない場合は、外周部を数カ所測定しましょう。



4-(5) 品質確保のための水分測定について

200kgロール



15kgロール



5 稲わら販売の収益性に関する分析結果

- 今回の試算に用いた数値は、調査結果の平均値です。
- 経費は、主に収集作業に携わっている人件費、燃料費、修繕費、稲わらロールのネット代等の諸経費、主な使用機械の減価償却費を算入しており、保管に係る設備費は含めていません。

(1) 調査組織数

8組織

(2) 面積規模

5ha～116ha

(3) グループ別概要

ア グループA (200kgロール大規模生産者)

(ア) 面積

106ha(4戸平均)

(イ) 主要装備

- ・トラクターは4台所有(33馬力～165馬力)
- ・レーキはツイン、シングル1台ずつ所有
- ・ロールベアラは1台～2台所有(1.2m×1.2m)
- ・ベールグラブは2台所有

イ グループB (200kgロール小規模生産者)

(ア) 面積

37ha(2戸平均)

(イ) 主要装備

- ・トラクター3台所有(60馬力～100馬力)
- ・ロールベアラ(1.2m×1.2m)1台所有
- ・レーキはツイン1台所有
- ・ベールグラブは1台所有

ウ グループC (15kgロール生産者)

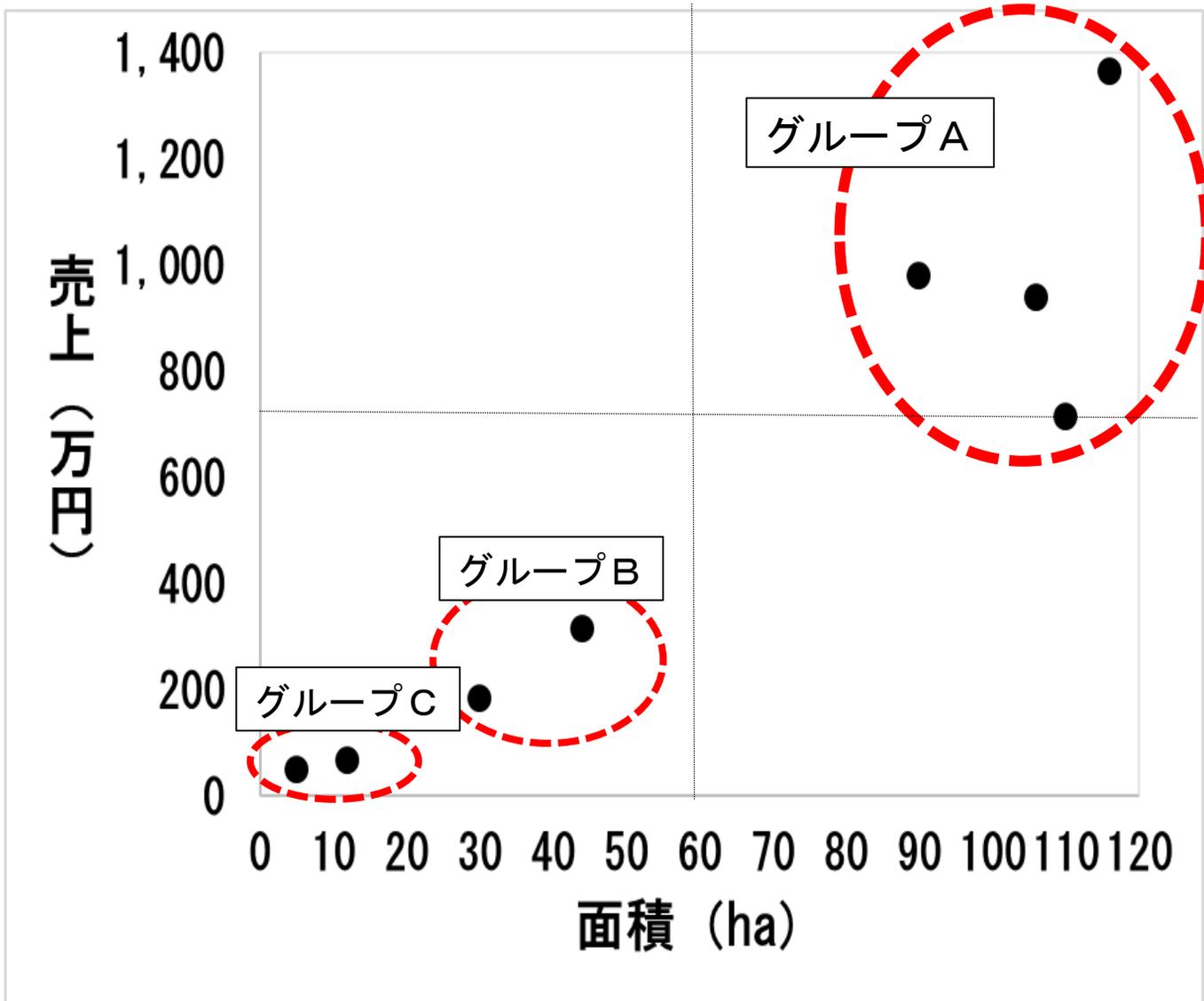
(ア) 面積

9ha(2戸平均)

(イ) 主要装備

- ・トラクター1台所有(26馬力～60馬力)
- ・ロールベアラ(50cm×70cm)1台所有

(4) 稲わら販売の収益性に関する調査



グループ別平均値

	規模 (ha)	売上 (千円)	変動費 (千円)	固定費 (千円)	利益 (千円)
グループA	106	10,009	635	4,639	4,735
グループB	37	2,571	232	2,088	251
グループC	9	626	111	418	97

ア ストラック図(変動損益計算図)を用いた分析の解説

- グループA(大規模4戸の平均)は、106haの稲わらを収集し、200kgの稲わらロールを2,625個生産しています。
- その売上高は1,000万円、経費が527万円、利益473万円となっています。
- 稲わらロール1個でみると、売上3,813円、経費2,009円、利益1,804円となり次のような関係です。

<200kg稲わらロール2,625個分>	<1個分>
売上高1,000万円	3,813円
－経費 527万円	
(変動費63万円＋固定費464万円)	－2,009円
利益 473万円	1,804円

- 経費には、稲わらロールを生産すればするほど、つまり、売上が増えれば増加する経費(以下「変動費」という。)と、売上の増減と連動しない経費(以下「固定費」という。)があります。
- 固定費は、売上から変動費を差し引いた「粗利」から回収するという考えで、整理すると次の図となります。

$$\begin{aligned} \text{ロール1個当たりの売上(P)} - \text{変動費(V)} &= \text{粗利(M)} \\ \text{粗利(M)} \times \text{生産総ロール数(Q)} &= \text{粗利総額(MQ)} \\ \text{粗利総額(MQ)} - \text{固定費(F)} &= \text{利益(G)} \end{aligned}$$

5-(4) 稲わら販売の収益性に関する調査

例

ロール 1 個分 (円)		経営全体 (千円)		
売上 (P)	変動費 (V)	=	売上高 (PQ)	
4,000	250		売上原価 (VQ)	
	粗利 (M)		10,000	625
	3,750	固定費 (F)		
×		9,375	4,000	粗利総額 (MQ)
200kgロール (個)		利益 (G)		
ロール数 (Q)		5,375		
2,500		稲わら		
500 t		500 t		

※稲わらの収集重量500tは、稲わら収集重量600kg/10aの場合は約83ha、450kg/10aの場合は約111haに相当

<ストラック図の解説>

- P : 稲わらロール1個の売上
- V : 稲わらロール1個に要する変動費
今回は燃料費、諸経費(ネット代)を変動費とした。
- M : 粗利、PからVを差し引いた値 (P - V)
- Q : 生産した稲わらロール数
- PQ : P × Q、経営全体の売上を示す
- VQ : V × Q、経営全体の変動費の合計、売上原価を示す
- MQ : M × Q、またはPQ - VQ、経営全体の粗利を示す
- F : 稲わらロールに関係するすべての固定費、経営全体の粗利(MQ)が固定費を上回っていれば黒字、下回れば赤字を示す

黒字 : MQ > F、損益分岐点 : MQ = F、赤字 : MQ < F

今回は、人件費、修繕費、減価償却費を固定費とした。

G : MQ - F、経営全体の利益を示す

イ グループAの収益構造

ロール1個分 (円)		=	経営全体 (千円)	
売上 (P)	変動費 (V)		売上高 (PQ)	売上原価 (VQ)
3,813	242	10,009	635	
	粗利 (M)		粗利総額 (MQ)	固定費 (F)
	3,571		9,374	4,639
× 200kgロール (個) ロール数 (Q) 2,625 稲わら 525 t		利益 (G) 4,735		

- グループAは、200kg稲わらロール1個を3,813円で2,625個販売し、経営全体の売り上げが1,000万円、利益は464万円となっていることを示しています。
- また、稲わらロール3,813円で販売した場合の損益分岐点は、 $F = MQ$ なので、 $2,625 \times \frac{4,639 \text{千円}}{9,374 \text{千円}} = 1,299 \text{個} (260 \text{t})$ となります。
- 稲わらロール1個3,813円の場合、グループAが赤字にならないためには、
稲わら収集重量600kg/10aの場合、約43ha ($260 \text{t} \div 600 \text{kg}/10 \text{a} = 43.3 \text{ha}$)
稲わら収集重量450kg/10aの場合、約58ha ($260 \text{t} \div 450 \text{kg}/10 \text{a} = 57.7 \text{ha}$)
の稲わらを収集することが必要となります。

〔参考 グループAの経営シミュレーション〕

① 稲わらロールを1個5,000円で販売した場合

ロール1個分 (円)		=	経営全体 (千円)		
売上 (P)	変動費 (V)		売上高 (PQ)	売上原価 (VQ)	
5,000			13,125	635	
	242			粗利総額 (MQ)	固定費 (F)
	粗利 (M)			12,490	4,639
4,758	利益 (G)	7,851			
×					
200kgロール (個)					
ロール数 (Q)					
2,625					
稲わら					
525 t					

※稲わら収集重量525tは、稲わら収集重量600kg/10aの場合
は約88ha、450kg/10aの場合は約117haに相当

- シミュレーション①は、200kg稲わらロール1個を5,000円で2,625個販売し、経営全体の売り上げが1,312万円、利益は785万円となっていることを示しています。
- また、稲わらロール5,000円で販売した場合の損益分岐点は、

$$F = MQ \text{ なので、} 2,625 \times \frac{4,639 \text{ 千円}}{12,490 \text{ 千円}} = 975 \text{ 個 (195 t)}$$
 となります。
- 稲わらロール1個5,000円の場合、グループAが赤字にならないための収集面積は、
 稲わら収集重量600kg/10aの場合、約33ha (195t ÷ 600kg/10a = 32.5ha)
 稲わら収集重量450kg/10aの場合、約43ha (195t ÷ 450kg/10a = 43.3ha)
 となり、単価アップによって、損益分岐点が低くなります。

[参考 グループAの経営シミュレーション]

② 設備投資して、4, 500ロール生産した場合

(グループAにトラクター1台(60馬力相当)を購入した場合)

※8,899,000円÷7年=1,271,126円を固定費に追加

(クボタ株式会社のカatalog価格参考)

ロール1個分 (円)		=	経営全体 (千円)		
売上(P)	変動費(V)		17,159	売上高(PQ)	売上原価(VQ)
3,813	242	16,070		粗利総額(MQ)	固定費(F)
	粗利(M)			5,910	
	3,571		利益(G)	10,160	
×					
200kgロール (個)					
ロール数(Q)					
4,500					
稲わら					
900 t					

※稲わら収集重量900tは、稲わら収集重量600kg/10aの場合
は150ha、450kg/10aの場合200haに相当

●シミュレーション②は、200kg稲わらロール1個を3,813円で4,500個販売し、経営全体の売り上げが1,715万円、利益は1,016万円となっていることを示しています。

●また、稲わらロール3,813円で販売した場合の損益分岐点は、 $F=MQ$ なので、 $4,500 \times \frac{5,910 \text{千円}}{16,070 \text{千円}} = 1,655 \text{個} (331 \text{t})$ となります。

●稲わらロール1個3,813円の場合、グループAが赤字にならないための収集面積は、
稲わら収集重量600kg/10aの場合、約55ha ($331 \text{t} \div 600 \text{kg} / 10 \text{a} = 55.1 \text{ha}$)
稲わら収集重量450kg/10aの場合、約74ha ($331 \text{t} \div 450 \text{kg} / 10 \text{a} = 73.5 \text{ha}$)
となり、設備投資によって、損益分岐点が高くなります。

ウ グループBの収益構造

ロール1個分 (円)		=	経営全体 (千円)	
売上 (P)	変動費 (V)		売上高 (PQ)	売上原価 (VQ)
3,305	298	2,571	232	
	粗利 (M)		粗利総額 (MQ)	固定費 (F)
	3,007		2,339	2,088
	利益 (G)	251		
×				
200kgロール (個)				
ロール数 (Q)				
778				
稲わら				
156 t				

※稲わら収集重量156tは、稲わら収集重量600kg/10aの場合は26ha、450kg/10aの場合は約35haに相当

●グループBは、200kg稲わらロール1個を3,305円で778個販売し、経営全体の売り上げが257万円、利益は25万円となっていることを示しています。

●また、稲わらロール3,305円で販売した場合の損益分岐点は、

$$F = MQ \text{ なので、 } 778 \times \frac{2,088 \text{ 千円}}{2,339 \text{ 千円}} = 695 \text{ 個 (139 t)}$$

となります。

●稲わらロール1個3,305円の場合、グループBが赤字にならないためには、

稲わら収集重量600kg/10aの場合、約23ha (139t ÷ 600kg/10a = 23.1ha)

稲わら収集重量450kg/10aの場合、約31ha (139t ÷ 450kg/10a = 30.8ha)

の稲わらを収集することが必要となります。

エ グループCの収益構造

ロール1個分 (円)		経営全体 (千円)		
売上 (P)	変動費 (V)	売上高 (PQ)	売上原価 (VQ)	
321	57	626	111	
	粗利 (M)		粗利総額 (MQ)	固定費 (F)
	264		515	418
×		利益 (G)		
1.5kgロール (個)				
ロール数 (Q)				
1,950				
稲わら				
29 t				

※稲わら収集重量29tは、稲わら収集重量600kg/10aの場合は約4.8ha、450kg/10aの場合は約6.4haに相当

●グループCは、1.5kg稲わらロール1個を321円で1,950個販売し、経営全体の売り上げが63万円、利益は10万円となっていることを示しています。

●また、稲わらロール321円で販売した場合の損益分岐点は、

$$F = MQ \text{ なので、} 1,950 \times \frac{418 \text{ 千円}}{626 \text{ 千円}} = 1,302 \text{ 個 (20 t)}$$

となります。

●稲わらロール1個321円の場合、グループCが赤字にならないためには、

稲わら収集重量600kg/10aの場合、約3ha (20t ÷ 600kg/10a = 3.3ha)

稲わら収集重量450kg/10aの場合、約4ha (20t ÷ 450kg/10a = 4.4ha)

の稲わらを収集することが必要となります。

(参考) 県南地域における稲わら需要について

- 県南地域の畜産農家24戸に調査した結果、今後の稲わら需要について、「増える」と回答した農家が5戸、「変わらない」が15戸、「減らす」が3戸、「稲わらを使用していない」が1戸であった。
- 県南地域における稲わらの需要量は、「増える」と回答した農家が「減らす」と回答した農家より多いことから、徐々にではあるが、現状より増えていくもの考えられる。

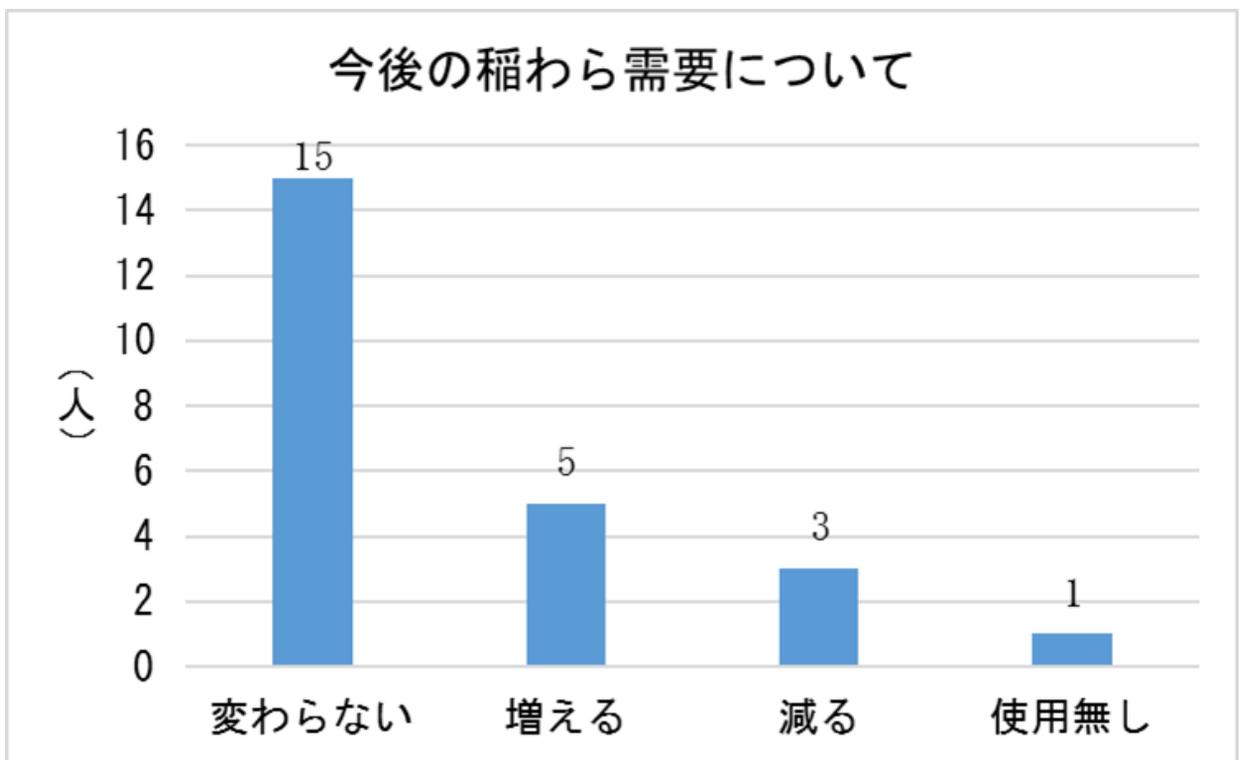
○調査概要

調査期間：令和2年8月17日～11月30日

調査方法：普及指導員による聞き取り

調査対象：県南地域の畜産経営体

調査数：24件、うち肉用牛経営回答17件
(個人11戸、法人6経営体)



6 宮城県での取組事例

有限会社大場アグリサービス(宮城県大崎市)

○稲わら収集面積

自社収集約500ha、稲作農家から稲わらロールを500ha分仕入れ、年間3,000 t 販売

○作業員

6名(従業員含む)

○ロールの品質

水分16%以下を基準

○販売先

肉牛農家9割、競馬関係1割
春わらは、酪農家に堆肥用として販売

○稲作農家をお願いしていること

栽培管理中の溝切りと中干し
収穫時できるだけ稲わらを踏みつけないこと

円/kg

サイズ	わら代のみ	県内・近隣県	関東	関西
100cm	25~30円	35~40円	42~48円	50円~
125cm	25~30円	35~40円	40~45円	48円~

※税別価格、運賃込み、放射能検査証明書添付

7 その他

(1) 青森県で残留農薬を検査できる機関

- 出荷先等から残留農薬について求められた場合は以下の検査機関に問い合わせをしましょう。

一般財団法人 「青森県薬剤師会 食と水の検査センター」

問い合わせ先 017-762-3620

(2) 稲わら収集を受託する生産者

- 飼料安全法では、流通段階での飼料の安全性の確保の安全性の確保及び品質の改善を図るため、飼料及び飼料添加物の製造等に関する規制が行われています。

ア 飼料等の製造・販売・輸入業者の届出

飼料の販売業者は都道府県知事に、事業を開始する2週間前までに届け出ることが義務付けられています。

また、届け出た内容に変更（廃止含む）が生じた場合は、1か月以内にその旨を届け出る必要があります。

これに従わず、無届で営業した場合、法律による罰金（30万円以下の罰金）の対象となります。

イ 飼料等販売業者の届出について

家畜等の飼料を販売する場合には、小売業でも届出が必要です。

なお、自ら生産した農産物を飼料として畜産農家に販売する場合は、届出の必要はありません。

問い合わせ先 017-734-9498

青森県畜産課衛生・安全グループ

(飼料販売業者 届出様式)

飼料販売業者届

令和 年 月 日

青森県知事 三村 申吾 殿

住 所

氏 名

印

下記のとおり飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律第 50 条第 2 項の規定により届け出ます。

記

1 氏名及び住所

(法人にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)

〇〇株式会社 代表取締役社長 〇〇〇〇

青森県〇〇市〇〇大字〇〇字〇〇番地〇号

2 販売業務を行う事業場及び飼料を保管する施設の所在地

(1) 販売業務を行う事業場の所在地

青森県〇〇市〇〇大字〇〇字〇〇番地〇号 (〇〇支店)

(2) 飼料を保管する施設の所在地

青森県〇〇市〇〇大字〇〇字〇〇番地〇号 (〇〇倉庫)

3 販売に係る飼料の種類

種 類
〇〇用配合飼料
〇〇

4 飼料の販売の開始年月日

〇〇年〇〇月〇〇日

青森県稲わら流通促進会議設置要綱

(名称)

第1条 本会の名称は「青森県稲わら流通促進会議」（以下「会議」という。）とする。

(目的及び設置)

第2条 会議は、「商品としての稲わら」視点に立った稲わらの収集、販売、利用の好循環の確立に向けた取組を推進することを目的として設置する。

(業務)

第3条 会議は、前条の目的を達成するため、以下に掲げる事項について検討、調整する。

- (1) 稲わらの利用促進、マッチングに関する情報の収集・提供に関すること
- (2) 稲わらの収集量等のデータ整備に関すること
- (3) 稲わらの品質向上に向けた方策の検討に関すること
- (4) その他稲わらの有効利用、流通促進に関すること

(組織)

第4条 会議は、学識経験者、関係機関・団体、稲わら収集事業者、畜産農家等稲わら実需者、関係市町村及び県、その他関係者などで構成する。

2 構成員は、検討事項に応じて、随時、青森県農林水産部食の安全・安心推進課（以下、「食の安全・安心推進課」という。）が選定する。

3 会議には座長を置くことができ、検討事項に応じて、食の安全・安心推進課が出席者の中から選出する。

(事務局)

第5条 会議に関する事務は、食の安全・安心推進課において処理する。

(招集、運営)

第6条 会議は食の安全・安心推進課が必要に応じて招集する。

2 会議は、個別利害に直結する事項についての検討も含まれる可能性があるため、原則として会議及び議事は非公開とする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に対して必要な事項は、その構成員の協議をもって定める。

付 則

この会則は、平成31年2月12日から施行する。

構成員

弘前大学、畜産農家（（有）金子ファーム）、稲わら収集事業者（わら屋.com、（株）myブランド、加藤衛）、青森県畜産農業協同組合連合会、JAつがるにしきた、JAごしょつがる、つがる市、五所川原市、中泊町、県（東青、中南、西北、上北）地域県民局、農林水産政策課、畜産課、食の安全・安心推進課

<お問い合わせ先>

(青森県稲わら流通促進会議)

事務局 青森県農林水産部食の安全・安心推進課

電話番号 017-734-9353(環境農業グループ直通)

E-mail SANZEN@pref.aomori.lg.jp

当マニュアルに関する情報はこちら

